

【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員 氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方
<b>議案 1 柏原市子ども・子育て会議について</b>			
1	西村 委員	わたしが所属する他の組織では会議はすべてウェブになっています。ウェブに移行しても何の問題もありません。本会議もウェブで行うようにすべきと思います。	現時点では次の理由により、子ども・子育て会議をウェブ会議とする環境が整っていないため、今後も同じ状況が続くのであれば書面で開催をしたいと考えています。 ①現時点で市がホストとしてウェブ会議を開催できないこと ②機器等の都合により、ウェブ会議に参加できない委員もいること。 開催方法についてはウェブ会議も含め検討を続けます。
18	二葉 委員	《意見 No. 1 の市の考え方に対するご意見等》 会議は今の状況を勘案すれば書面会議が無難でしょう。しかし、今後の会議の充実を考えるとウェブ会議も一つに思え、切り替える必要があると思います。 私は、使える様に特訓します。	ご意見（No.1）に対する市の考え方で、①「現時点で市がホストとしてウェブ会議を開催できない」としていましたが、2月1日から開催できることになりましたのでご報告いたします。②「機器等の都合により、ウェブ会議に参加できない」については、市でサポートする、又はハイブリッド方式を検討するなどなるべくウェブ会議で開催できるよう検討したいと思います。
2	二葉 委員	私、委員になって会を重ねるごとに会議の位置付け・役割が重要な時期になって来ている様に思います。子ども・子育ての環境が大きく変っていく時代に、どの様な方法で取り組む必要があるか等、考えさせられる事が多々あります。今迄の経験を生かし、現状、そして今後に予想される事柄を想像し、多くの課題に対して自分の考え・意見をまとめ、判断が必要と思います。従って常日頃から柏原市に関心をもち様々な行事に参加し努力していきたい。	ありがとうございます。 今後も引き続きご協力をお願いいたします。
3	谷向 委員	客観的な資料や学術的な知見、さらに柏原市の現状をよく知る地域の人からの意見など、より活発な議論ができるように貢献したいと考えます。 書面の方が意見を言いやすい方もいらっしゃるかもしれません。委員のご意見箱を設けるのも一案かもしれません。	ご協力いただきありがとうございます。 ご意見箱について、事務局では随時、電話、メール、FAX 等でご意見をお受けいたします。また、以前にはこの会議の派生部会として「就学前児童のための教育・保育施設のあり方検討部会」を設け、ご提言をいただいたことがありました。このように部会でのご意見や個別具体的に検討した結果について、市にご提言いただく方法等もごございます。


【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
<b>議案 2 委員の委嘱について</b>			
4	二葉委員	子ども・子育てについて、常日頃から関心を持ち努力している多くの関係者が市から委嘱を受け、話し合う事は、それなりの意義があり、成果もあると思います。しかし、現実の会議に於いて、なかなか子ども・子育て世帯からの生の声も少なく身近に聞く機会もあまり無く、何とかしたいと思います。特に子ども・子育て世帯からの生の保護者の声を取り上げる様にしましょう。参加人員を増やし、色々な方法で（メール、伝言、手紙、ファックス）充実した会議にしましょう。	子ども・子育て会議につきましては、市民の皆さんのご意見をもとに、市の子育て施策の在り方や方針等について専門の方々に協議していただく会議ですので、会議の人数を増やすことにつきましては、一定の限度があります。 このことから、市としましては、5年に1度実施している計画策定のためのアンケート調査の自由意見等で様々なご意見・要望をいただいたり市独自の質問等を盛り込み、その結果を計画に反映することは可能ですので、そういった手法で意見を吸い上げたいと考えております。また、個別具体的に調査する内容等があれば随時調査を行うなど、できるだけ多くの市民の方に何らかの形で参加していただけるよう工夫してまいります。
19	二葉委員	「意見 No. 4 の市の考え方に対するご意見等」 人数の制限はわかります。しかし、大事な時期に生の声が何分にも必要です。市民代表と保護者の参加はPR不足と思っています。色々なカタチで意見の収集をしましょう。	子ども・子育て会議について、多くの方に参加したいと思っていただけるよう募集時の広報について検討してまいります。 個別具体的に調査する内容等があれば随時調査を行い、できるだけ多くの市民の方に何らかの形で参加していただけるよう工夫してまいります。
<b>議案 3 子ども・子育て会議に関する調査の結果について</b>			
5	藤宇委員	書面会議は資料がじっくり読めた上で回答できるので一番良いと思います。	書面会議では、感染症のリスクを回避できる、場所の確保が不要、日程調整が不要になり委員の皆様が会議に参加できる、というメリットがある反面、資料・文字が多くなり内容が分かりにくくなる、意見調整に時間がかかってしまう、雰囲気やニュアンスを読み取りづらい、人によっては意見しづらいというデメリットも考えられます。今後も同じ状況が続くのであれば書面での開催となりますが、開催方法についてはウェブ会議も含め検討を続けてまいります。
20	谷向委員	「意見 No. 1、5 の市の考え方に対するご意見等」 会議の持ち方ですが、確かにオンライン会議も増えてきました。 余談ですが、オンライン派と、オンライン環境が悪い方は市役所へ出向く市役所参集派のハイブリット方式も一案かと思いました。 また、現実的には難しいでしょうが、夜の開催も他市との連絡会では話が出ていました。	ご意見（No.1）に対する市の考え方で、①「現時点で市がホストとしてウェブ会議を開催できない」としていましたが、2月1日から開催できることになりましたのでご報告いたします。②「機器等の都合により、ウェブ会議に参加できない」については、市でサポートする、又はハイブリッド方式を検討するなどなるべくウェブ会議で開催できるよう検討したいと思います。 開催時間については、なるべく多くの委員にご参加いただけるよう調整して開催できればと思います。
6	二葉委員	各委員の現状およびこれ迄の活動実績を踏まえた意見は、大変いい参考になりました。是非、これらの意見・要望は、子ども・子育て会議だけではなく、柏原市の事業計画にも反映させて取り組めば良い成果もあるように思います。コロナ禍でも色々な取り組みを工夫し（ネット・書面・面談）会議を通じて情報を共有し取り組む事が大切だと思います。	子ども・子育て会議で委員の皆様から頂く様々なご意見は、これまでも市の子育て施策を実施する上で貴重な意見であり、施策を実施することで市に反映されているものと考えておりますので、引き続きよろしくご意見いたします。

【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員 氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
<b>議案 4 市立幼保連携型認定こども園の設置について</b>			
7	小松 委員	こども園化にあたり、毎日子どもたちにかかわるさまざまな立場の職員のみなさまの連携や、保育に関する共通理解等が重要と思われます。これまで継続的に準備に取り組んでこられていることはお伺いしておりますが、令和 3 年 4 月に一気に変更になるため、この点十分な準備と評価されているか、また、4 月以降も継続的に調整等が可能かどうかについて、具体的な体制や取組およびその評価について、ご説明をいただけたらと思います。	職員の保育に関する共通理解を深めることや質の向上を図るため、柏原市内の幼稚園、保育所及び認定こども園で研究会を開いています。 また、2 週間に 1 回程度、市立認定こども園の園長・副園長予定者らと準備会議を開催し、開園までのスケジュールを意識しながら市立認定こども園としての基礎となる内容をおおむね 12 月中に決定することができました。 現在は各園が決定した内容のまとめの確認、幼稚園・保育所の担任同士の話し合い、各園の準備進捗状況を把握しながら引越しや荷物運搬、新年度用の物品の製作等を始めています。
8	小松 委員	他市ですが、小学校に隣接する旧幼稚園が、雑草だらけでそのままにされている状況を見て、いたたまれない気持ちになったことがあります。卒園生や地域のみなさんはさらに複雑ではないかと思えます。パブリックコメントでも、「大切に想って下さっている方々」への言及がありました。必要なメンテナンスは実施していただけたらと思います。	建物は人が居ないと劣化が早くなることは理解しています。他方、耐震診断結果を理由に保育所との統合が決まった国分幼稚園については建物をそのまま活用できないことや、厳しい財政状況の中、使用予定の無い施設の維持管理費を捻出することが難しいなどの事情もあります。 現在のところ、旧幼稚園の跡地利用が決定するまでの間、旧幼稚園の園庭を認定こども園の第二園庭のように利用するなど検討しています。
23	西 委員	<p>「意見 No. 8 の市の考え方に対するご意見等」</p> <p>幼稚園の閉園後の活用について、保育園の第二園庭として利用する案を聞かせていただきました。私の地域である堅下北幼稚園の廃園後の荒れていく園舎や園庭の様子をずっと見ながら、できるだけ早期の活用方法を検討し実施していただきたく思います。これからの時代、保育ニーズが高まり、認定こども園に通う幼児が増えると思います。その一方で、在宅にて子育てを頑張っているご家庭に安心して使っていただける場所としての活用もあるのではと思います。</p> <p>柏原市内において室内での子育て施設は市民の皆様にも周知していただき、とても充実していると思いますが、年齢が大きくなり、発達に伴って外遊びの大切さも感じます。以前、アンケートの要望に安心・安全な公園の整備などがありました。子育て支援の一環としても有意義な活用もお考えいただければ有難く思います。</p>	幼稚園の跡地利用については、公園への転用等も含め、公有財産として市全体で有効に活用できる方法を模索しているところです。なるべく早期に活用方法を決定できるよう検討を続けてまいります。
25	二葉 委員	<p>「意見 No. 23 に対するご意見等」</p> <p>同意見です。私の地域も最近若い人達の家族が増え、街には活気があります。近くには保育園・幼稚園があり、公園もあるものの、狭く、更にいらないブロック花壇が不安全で大変危険です。いつも混み合っています。こちらでは、ココしか外で遊ぶ場所はありません。幼児から小中学生、保護者が安心して楽しく過ごす場所は至急に必要です。廃園後の活用をお願いします。</p>	既存の公園で危険を感じる箇所等は随時、市へご連絡いただければと思います。 幼稚園の跡地利用については、公園への転用等も含め、公有財産として市全体で有効に活用できる方法を模索しているところです。 なるべく早期に活用方法を決定できるよう検討を続けてまいります。

【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
9	小松委員	<p>基本的に、（新築の「かしわらこども園」を除いて）保育所の施設を用いていくことについては、必要な設備等の関係もあるものと思います。しかし、「かたしも」や「たまた」については、小学校に隣接する幼稚園の施設がそのままになっており、また、園庭等は保育所より広いように見受けられます。小学校との連携等において有利な、隣接の場所を「遊ばせておく」のは、あまり適切とは思われません</p> <p>（Googlemap で確認する限り、閉園となっている「旧 堅下北幼稚園」についても同様かと思えます）。さらに、「かしわらこども園」では新築の施設である一方で、他の園は、既存の施設の利用ということで、上の 0 歳児の保育ともあいまって、同じ市内で、状況が異なるものと思います。財政状況等を考えれば、これらについてすぐに条件をそろえることはできないかもしれませんが、（必要なら小中学校も含めて）どのような施設整備をして、どのような保育・教育を提供しようとするのか、柏原市としてのグランドプランを策定する必要性が高い時期ではないかと考えます。この点について、具体的にどのような状況かお伺いできたらと思います。（できましたら、「現在はない」場合、いつごろからできるのか、見通しが立たない場合はどのような課題があるか、具体的にお知らせいただけたらと思います。）</p>	<p>今回の統合による幼保連携型認定こども園への移行に既存の保育所を活用している理由としては、保育所には既に調理設備（外部搬入方式に対応するもの）や低年齢児用の便所等必要な設備が整っていること、部屋数が多いこと等が挙げられます。市の公共施設に関する基本計画としては、国で平成 25（2013）年 11 月に「インフラ長寿命化基本計画」（インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）が定められ、平成 29（2017）年 3 月に「柏原市公共施設等総合管理計画」、「柏原市公共施設基本デザイン（案）」を策定して公共施設のあり方・方向性を定めており、その計画の推進のため平成 30(2018)年 11 月に「柏原市子育て支援施設個別施設計画」を策定しています。公共施設等総合管理計画における幼稚園、保育所の施設の方向性としては、基本的に「統合」としておりますが、新築や既存施設の活用といった統合の手法については決まっていません。現状としましては、財政状況等からみて具体的な見通しは立っていませんが、建物の老朽化等の課題もあることから、新たな場所での新築、同場所での建替えや大規模修繕等の施設整備について、検討を続けてまいります。なお、幼稚園、保育所、認定こども園等で提供する教育・保育の内容は「柏原市就学前教育・保育カリキュラム」で定めており、今後も当カリキュラムに基づいた教育・保育の実践に努めてまいります。</p>
24	小松委員	<p>《意見 No.9 の市の考え方に対するご意見等》</p> <p>ご紹介いただいた「柏原市子育て支援施設個別施設計画」をインターネット検索し、拝見しました。</p> <p>この内容について、先日の意見（No.9）で、個人的なイメージで「グランドプラン」と申し上げた内容に近い部分があるように思われました。ただ、この計画では幼稚園と保育所の統合は 2036 年と想定されており、今回大幅に「前倒し」された形になっています。0 歳児の保育も含めて、施設に制約されている部分もあると思いますので、統合の前倒しにあわせ、整備についても早めの検討・対応を進めていただいたほうがよいのではないかと考えました。</p> <p>また、この「施設計画」は子ども・子育て会議ではおそらくご紹介いただいているのではないかと思います。もしかすると「この資料は法律上・規程上子ども子育て会議の対象に含まれない」ということなのかと思いますが、先にも書いたように、施設と取り組みは切り離せないところもあります。また、ここで紹介されている現状や改修の必要性は、柏原市の子育てを考えるうえで必要な理解ではないかと思えます。議論の対象とする形でなくても、今後このような資料についてもご紹介いただくのはどうかと思われましたので、ご検討をお願いいたします。</p>	<p>大幅に前倒しとなった施設について、現状として、施設整備の具体的な見通しは立っていませんが、総合的に判断して優先順位を決定し、順次必要な整備を進めていきたいと考えています。</p> <p>「柏原市子育て支援施設個別施設計画」をご案内できておらず申し訳ありませんでした。</p> <p>今回の追加資料としてご案内いたします。</p> <p>《市ウェブサイト》</p> <p>◆柏原市子育て支援施設個別施設計画の策定  <a href="http://www.city.kashiwara.osaka.jp/docs/2018112800058/">(http://www.city.kashiwara.osaka.jp/docs/2018112800058/)</a></p> 




【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員 氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
26	小松 委員	<p>≪意見 No.24 の市の考え方に対するご意見等≫  「柏原市子育て支援施設個別施設計画」をお送りいただきありがとうございました。  子育て支援は、施設さえあればよいわけではなく、また、新しい施設でないといよい支援ができないかという、必ずしもそうではないと思います。しかし、子どもたちの環境というだけでなく、そこに子どもが通う親（+祖父母）世代がもつ柏原市のイメージや、そこで仕事をされるスタッフの方々の環境という点もあわせると、波及効果は小さくないと思います。また、前回申し上げた通り、施設によって必要なサービスに制約が生じる側面もあるように思います。</p> <p>「市の考え方」として、「総合的に判断して優先順位を決定し、順次必要な整備」を進められるとのこと、この会議でも今後適宜、整備状況や課題等を教えていただけたらと思います。</p>	<p>施設の更新については、「柏原保育所（かしわらこども園）」を建替えたことにより、内外から多くの良いご感想・ご意見をいただいております、ご意見のとおり、市のイメージ向上や定住促進のアピールポイントにもなるなど、波及効果は大きいと感じています。今後は、施設の整備等についても、計画段階から子ども・子育て会議で随時ご報告させていただきます、委員の皆様からご意見を頂戴できればと思います。</p>
10	二葉 委員	<p>これからの子ども・子育ては、幼児・子ども・家庭・地域の連携が必要です。市立幼保連携型認定こども園の設置は、是非とも必要な場所です。みんなで協力し成果も期待しながら頑張りましょう。</p>	<p>ありがとうございます。認定こども園は、在園児だけでなく、地域と連携して子育てのための基幹的な施設となることが求められています。今後も引き続きご協力をお願いいたします。</p>
11	谷向 委員	<p>幼保一元化において、幼稚園教諭と保育士、ならびに保育教諭の先生方の協働の進捗は如何でしょうか？</p> <p>一挙に統合が進む中、大変な面も多々あると存じますが、一方で新たな角度からチャレンジもできるのではないかと思います。柏原市ならではの取り組みや課題がありましたらお聞かせください。</p> <p>また、統合により幼稚園教諭や保育士の余剰は生じなかったのでしょうか？地域を対象とした子育て支援にも専門性が求められるところから先生方の活躍の場は広がっていると思います。今後の人材活用はどうなるのでしょうか？</p>	<p>職員の保育に関する共通理解を深めることや質の向上を図るため、柏原市内の幼稚園、保育所及び認定こども園で研究会を開いています。</p> <p>また、2週間に1回程度、市立認定こども園の園長・副園長予定者らと準備会議を開催し、開園までのスケジュールを意識しながら市立認定こども園としての基礎となる内容をおおむね12月中に決定することができました。現在は各園が決定した内容のまとめの確認、幼稚園・保育所の担任同士の話し合い、各園の準備進捗状況を把握しながら引越しや荷物運搬、新年度用の物品の製作等を始めています。</p> <p>柏原市ならではのどうかは分かりませんが、今回の認定こども園化では、幼稚園と保育所が1対1同士の統合であるため、事前に児童が交流する様子を確認しながら実際の子ども姿を踏まえた話し合いができています。</p> <p>幼稚園教諭と保育士については、余剰は生じない予定です。認定こども園では、子育て支援事業の実施が義務付けられますので担当職員の配置が必要となります。子育て支援事業では、在園児だけでなく、地域の子育て支援全般に関わり、地域における関係機関等との調整を行うなどの重要な役割が求められています。</p>

【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員 氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
12	小松 委員	「かしわらこども園」では、0歳児の保育が実施されるのに対し、他のこども園ではそうっておらず、もちろん準備等の問題もあり、すぐには難しいとは思いますが、今後の方向性をご説明いただけたらと思います。	外部搬入によって給食を提供していることや、乳児のための沐浴設備等の都合により、既存保育所園舎では0歳児の保育は実施していません。園庭や園舎面積等の認可上の基準をクリアしなければならないので現在の敷地で増築は難しく、調理設備の追加、乳幼児対応の改修も簡単ではありません。建物の老朽化等の課題は引き続き残りますので、新たな場所での新築、同場所での建替えや大規模修繕等の施設整備について、検討を続けてまいります。
21	西 委員	これまで主任児童委員として市立幼稚園の学校評議員、民生委員として保育所で「ゆうゆう広場」などの活動に関わってきました。 法善寺保育園では民営化によって「ゆうゆう広場」がなくなるなど、認定こども園になることについての理解はあるが、この変化によって地域との関わりなど必要なものでなくなってしまうのではないかと心配している。認定こども園になることでこれらの活動がどのようなものかをお聞きしたい。 また、現在、幼稚園で親子教室などの家庭教育を実施しているが、認定こども園では地域との連携や家庭教育が必要になると思います。 この家庭教育が認定こども園でも存続するのかどうかをお聞きしたい。	いつもありがとうございます。各団体等へのご連絡が遅くなっており、申し訳ありません。 4か所の市立認定こども園は、それぞれ既存の保育所施設を活用して幼保連携型認定こども園に移行しますが、この移行によって幼稚園、保育所が無くなるのではなく、幼稚園と保育所がその機能そのままに合体するイメージです。 ですので、これまでの幼稚園での学校評議員や親子のための教室、保育所でのゆうゆう広場等、地域による子どものための活動は、認定こども園になっても引き続きご協力いただける範囲でお願いしたいと考えております。 各団体への正式なご挨拶等は後日予定しております。
22	二葉 委員	いよいよ市立幼保連携型認定こども園が各地域でスタートします。現時点迄の進捗状況について教えてください。 特に関係職員の皆様の現状をお願いします。	ソフト面では、No.7、11のご意見に対する市の考え方のおおむね、職員の保育に関する共通理解を深めることや質の向上を図るため、柏原市内の幼稚園、保育所及び認定こども園で研究会を開いています。また、2週間に1回程度、市立認定こども園の園長・副園長予定者らと準備会議を開催し、開園までのスケジュールを意識しながら市立認定こども園としての基礎となる内容をおおむね12月中に決定することができました。現在は各園が決定した内容のまとめの確認、幼稚園・保育所の担任同士の話し合い、各園の準備進捗状況を把握しながら引越しや荷物運搬、新年度用の物品の製作等を始めています。 ハード面では、かしわらこども園では、柏原保育所として令和2年11月から新園舎で保育を始め、令和3年1月から低年齢保育を拡充しています。現在も引き続き園庭部分の工事を実施しており、園庭を含めた全体工事の完了は、令和3年3月末の予定で、4月からはかしわらこども園としてスタートします。 たまたこども園では、令和3年3月末までに、こくぶこども園では、令和3年度中に、トイレや内装壁紙の改修、駐停車スペースを設けるなど、環境改善のための工事をしています。かたしもこども園は、令和3年度以降で改修を検討いたします。

【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員 氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
27	西 委員	<p>今回送付資料（「柏原市子育て支援施設個別施設計画」）を見させていただき、現在すぐに問題はないとしても、すべての主となる建物についての老朽化が気になるところです。各施設におきまして安心して安全な場所での保育・教育が受けられます様、修繕が必要な箇所は出来るだけ早期の対応をお願いしたいと思います。</p>	<p>施設の老朽化への対応、環境改善等の必要性は、市としても課題として認識しております。</p> <p>新築・建替えなどの施設・設備等の更新の必要性・妥当性を十分に検証しながら、計画していくとともに、安心・安全な教育・保育を提供するための必要な修繕等は随時実施していきたいと考えています。</p>
28	谷向 委員	<p>文科省の幼児教育の実践の質向上に関する検討会の中間報告が昨年 5 月に出されました。子ども子育て会議と関連が深いと思いますので、皆様に URL の情報をお知らせしてはどうかと思います。</p> <p>この中間報告では 4 つの今後の基本的方向性と、6 つの質向上のための具体的方策が挙げられています。これら具体的方策に関して、今回の当会議で触れられている箇所もあると思いますが、さらに柏原市の今後の方向性と方策についてご意見をお聞きしたいところです。</p> <p>大阪府下では、幼児教育推進体制の充実活用強化事業（令和 2 年度）に大阪市、堺市、八尾市が上がっていました。まだまだ先駆的な取り組みの段階と思いますが、柏原市でもグランドプランを考えるうえで、参考になる点もあるのではないかと思います。</p> <p>次年度でも結構ですので、子ども子育て会議で取り上げて頂けるか（柏原市が推進できる方策は何かについて）ご検討ください。よろしく申し上げます。</p> <p>《文部科学省ウェブサイト》 ◆幼児教育の質の向上について（中間報告） <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/140/mext_00385.html">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/140/mext_00385.html</a></p> 	<p>ご紹介いただきましたサイト「幼児教育の質の向上について（中間報告）」に掲載されている資料「幼児教育の質の向上について（中間報告）（概要）」を今回の追加資料としてご案内いたします。</p> <p>柏原市の取組状況等については、次回以降の会議でご報告できればと思います。</p>

【第 20 回 柏原市子ども・子育て会議（書面開催）におけるご意見等一覧】

意見 No	委員 氏名	意見・提言内容（原文）	市の考え方（案）
<b>議案 5 市立幼保連携型認定こども園の定員設定について</b>			
13	二葉 委員	柏原市の特長を生かせるように、なるべく柔軟な対応を期待します。	ありがとうございます。現在の教育・保育需要の状況を踏まえると、市立認定こども園の利用定員の設定は、供給不足等が生じることもなく確認基準と照らし合わせて適合する見込みであることから適切な設定であると考えています。
14	西村 委員	コロナの影響で出生数が激減しているの、来年以降は急速に少子化が進むと考えられます。定員設定を見直す必要があるかもしれません。	教育・保育における需要（量の見込み）と供給（確保方策）では、現在のところ、供給過多となっています。少子化が急速に進んだ結果として、恒常的に供給過剰となってしまう場合は、定員設定を見直す必要はありますが、それが一時的なものなのかどうかの見極めが大事であると考えていますので、今後、子ども・子育て会議におきましても委員の皆様にご議論いただくなど、慎重に検討してまいりたいと考えております。
15	小松 委員	5 ページおよび 6 ページ 「令和 2 年度の実績値は、想定以上に低くなりました」の理由について、どのような分析をされているか、今後どのような点を注視されるか、お知らせいただけたらと思います。	「令和 2 年度の実績値は、想定以上に低くなりました」の理由については、5 ページ 1 号認定表中、令和 2 年度の量の見込み合計①「656」に対し、令和 2 年度の実績③「556」でその差が「100」となっており、また、6 ページ 2・3 号認定表中、令和 2 年度の量の見込み 2 号（3～5 歳）「733」に対し、令和 2 年度の実績 2 号（3～5 歳）「822」で過去 6 年で最大実績となり、量の見込みとの差が「89」となっていることから、教育需要として見込んでいたものが実績として保育需要になったと考えられます。 保育需要は令和元年度の実績で全体として減少に転じていたため、新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢の変化が一因なのか、単純に共働き世帯等の増加であるのかは注視したいと考えています。
16	小松 委員	「廃園」「廃止」という語が複数回使われています。これは委員会内の資料（外部には出ない）で、また、実質している内容は一緒かもしれません。さらに、法律用語としては「廃止」かもしれません。しかし、資料でも「4」では「閉園」という語が使われていて、パブリックコメントにあるような意見を踏まえても、出来る限りそのような言葉を使った方がよいようにも思われました。	ご指摘ありがとうございます。 文言表記の統一ができておらず申し訳ありません。 今後は文言表記等の表現方法についても配慮するよう努めます。
17	谷向 委員	今年度の 0 歳児が 60 名と少なく、さらに少子化が進んでいることを感じます。来年度以降、COVID-19 の影響で女性の労働環境がどうなるのか不透明ですが、求職中の親など入所条件に配慮を示すと共に、0 歳児保育の拡充、せめて 1 歳 0 か月からの預かりになるよう努力をお願いしたいところです。	認定期間に一定の制限がありますが、求職中であれば現在でも保育認定を受けられますので、保育所等を利用することは可能です。 市立保育所、市立認定こども園での 0 歳児保育については、施設・設備の都合により実施できていませんが、新たな場所での新築、同場所での建替えや大規模修繕等の施設整備に合わせて検討を続けてまいります。